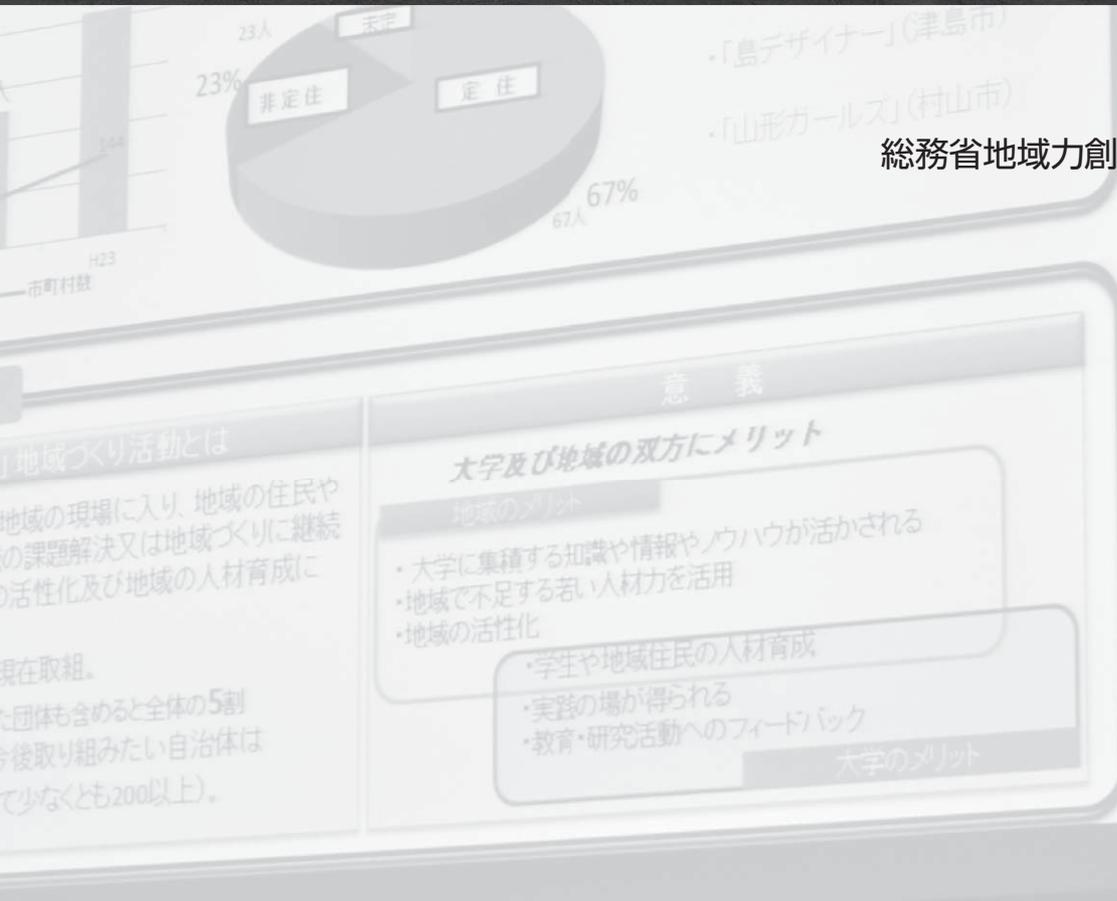




全体会

10/11(木)

新城文化会館 大ホール



情報提供

総務省地域力創造グループ過疎対策室長
愛知県地域振興部長



総務省

「地域の皆様へのメッセージ」

総務省
地域力創造グループ
過疎対策室長

山口 祥義
やまぐち よしのり



まず、今日は皆様お集まりいただきましてありがとうございます。ごぞいます。

今回、全国過疎問題シンポジウムでは初めて、飯盛先生と山崎先生、講演者2名という形式をチャレンジさせていただいたのですが、非常に良いハーモニーだったかと思います。先程、珠洲市長が、「やっぱり地域は、住民で楽しむのが基本やな。」とおっしゃっていましたが、二人のお話も、それが基本になったようです。そして、我々の進めている政策にも、確信が持てたような気がします。私も、佐賀出身ですが、「いさがい」という名字の友達はいません。知る限りでは飯盛先生だけで、山口が一番多いと思います。佐賀県では、なかなか少ない名字だと思います。

それでは最初にこの地域について、関係が深い政策の案内をさせていただきたいと思います。新城市のエリアですが、通常、新城市の方に通勤するという方が多いと思われませんが、この地域は、新城市からこの後背地である、設楽町、東栄町、豊根村に働きに出られる方が意外と多い地域でありまして、こういった地域が、全国にだいたい15くらいあります。このような地域に対する政策が今までなかったのが、総務省といたしまし



ては、豊かな自然を有し、温泉、歴史、文化等の地域固有の資源を生かした雇用を創出している多自然地域を後背地に持ち、そこに通勤する住民が居住し、後背地を支える都市機能を発揮している居住拠点都市を中心とする生活経済圏に対する振興策を検討し始めております。これは、明日の分科会で、この施策を担当している総務省の牧課長から説明したいと思っておりますので、ぜひ、積極的な取組を検討いただきたいと思います。

次に、今日の本題ですけれど、「外からのサポート」ということで、うちの政策なのですが、地域おこし協力隊を始めて4年目になり、ご好評で、徐々に人数が増えていまして、23年度は413人が隊員として活動しています。我々が一番嬉しかったのは、3年の任期を迎えた隊員のうち、約7割が定住いただいている。3年間みんな苦しんで、いろんな、それこそネットワークで気持ちのつながりあって、その後どうしようかって、地域の皆さん方もすごく悩まれて、それでもやっぱり7割が定住いただいたのは、非常に画期的な成果だったのかなと思っています。

それから、最近、この関係で言うと、ミッションを明確にしたパターンで募集して、成果が上がっている例が多いような気がします。今日のパネルディスカッションに参加される邑南町の「耕すシェフ」もそうですし、対馬市の「島デザイナー」、それから村山市の「山形ガールズ農場」など徐々に成果が出てきています。

先程、飯盛先生がお話された域学連携は、これから発展していくテーマということで、我々も、一生懸命頑張っていきたいと思っております。

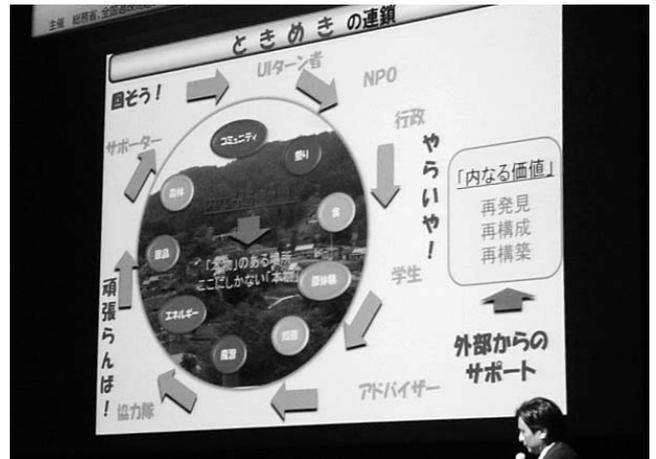
「ときめきの連鎖」とありますが、要は、大切なことは、各地域、過疎地域がそれぞれ有する価値、いわゆるバーチャルではない、内なる価値、本物のある場所と書かせていただきましたけれど、まさに、過疎地域には、それぞれ本物があります。コミュニティ、祭り、食、原体験、知恵、風習等と書かせていただきましたけれど、そういったものを大切に、そして、外から見れば、素晴らしい輝きのあるものがいっぱいありますから、その本物感を、しっかり大切にしていこう、ということです。そして、UIターン、NPO、行政、学生、アドバイザー等、外部の皆さんも一緒になって、それに加わり、地域の中に入り込み、みんなでアイディアを出し合い、そして、

その成果を喜び合い、地域が活性化していくことが望まれます。

そうやって、少しずつの成果を出して行って、ときめき、先程、楽しみという言葉もありましたけれど、それを連鎖させるということです。我々過疎対策室で、全国を廻って考えたポイントとしては、みんなが地域に誇りを持てるように楽しむことが、やっぱり原点だと、それにかなうものは、何も無いのではないかと。それから、誰かに任せてみよう、やってみないとわからないから、とにかく、前へ出てみよう、ということ。失敗が大切だと、それが成功につながるということ。小さな成功を積み重ねることが達成感になって、さらに前を向いていけるってことです。

地域は、やっぱり、お年寄りも含めて、ひとりひとりが素晴らしいものをお持ちなので、みんなが名人で、お互いほめたたえるということが、大切だということ。そういうことを繰り返していくうちに、幸せの連鎖、みんなやっぱり楽しいね、この地域って、素晴らしいね、と

内外ともに感じ合えるということが、我々の政策の原点でございます。我々のポリシーは「地域づくりは、人づくり」ということであります。現場を大切にして、地域を誇りに思っ、チャレンジしていくということでありまして、我々地域力創造グループは、過疎地域をこれからも応援し続けたいと思いますので、今後とも、よろしく願いいたします。



愛知県

「あいちの山里で暮らそう 80日間チャレンジ」

愛知県地域振興部長

近藤 正人
こんどう まさと



愛知県の地域振興部長の近藤でございます。今日は全国過疎問題シンポジウム2012 in あいちということで、総務省の過疎対策室長さんと併せて、地元愛知からも情報提供をさせていただきます。

最初に、お断り申し上げます。私が、今日、お話しさせていただこうと思っておりました、「あいちの山里で暮らそう 80日間チャレンジ事業」ですが、先程、大村知事が、冒頭の挨拶でほとんどお話されてしまったので、おさらい、さらには念押し、ということで聞いていただければと思います。

先程知事も申し上げましたが、この「あいちの山里で暮らそう 80日間チャレンジ事業」でございますが、昨年、愛知の離島、3つの離島で、80日間チャレンジというものをやらせていただきました。この成功体験が、今回の「山里で暮らそう」に繋がっているということがあります。言い換えれば、これは知事の肝入りの事業ということでございます。

事業の具体的な内容でございますが、このスライドにございますように、この全体会の会場、明日の分科会の会場であります5市町村において、都会で暮らしておられた5人の女性スタッフが、実際に住んで、暮

らしていただいて、そのうえで情報発信をしていただく、それも観光PRだけではなく、地域の交流、定住に繋がっていくことを狙いとしたものでございます。今日の会場、2階のロビーに設置された各市町村のブースでは、スタッフが、市町村のPRをさせていただいたところがございます。

この写真のように、5人のスタッフの皆さんは、8月末から12月末までの4ヶ月ということで、既に活動をしていただいております。この写真にありますように、各地域に入らせていただいて、例えば、地域資源を活用した婚活の企画、それから様々な体験、そのようなことを、既に始めております。それとあわせて、地域の皆さんが、5人のスタッフを受け入れるということを念頭に、その地域を活性化しようという機運が醸成されているといったこともあります。

この事業の考え方、進め方でございますが、まず、冒頭に書いてあります「ルーガ・リーモ」、これは、この5人のスタッフの総称ということではなくて、「あいちの山里」をブランドイメージとして推進していく合言葉ということで、5人のスタッフ、県、市町村、そういった関係者が話し合うなかで自然発生的に出てきた言葉でございます。5人のスタッフを中心に、この「ルーガ・リーモ」、これを合言葉に、スライドにあります「愛知の山里の有形無形の地域資源を見つめ直す」、さらには、「愛知の山里の新しいライフスタイルを提案する」、こういったことを進めていこうという事業でございます。

これはまさしく、今回のシンポジウムのテーマであります「外からのサポートと内なる価値」、これを具現化するための一手法である、と考えて、この一年の三河山間における重点事業の一つとして、位置づけて進めていきたいと考えているところでございます。

最後になります。これから、この5人のスタッフは、12月まで残り3ヶ月余りでございますが、山里の新たな魅力に気づき、それを発信することで、今まで、山里に興味のなかった人たちに「行ってみたい」、「住んでみたい」と思ってもらえるように活動していただきたいと考えている次第でございます。県も市町村も関係団体も、完璧にバックアップをして、この事業を進めてまいりたいと考えております。

このロゴにもございますが、フェイスブックページを立ち上げております。興味のある方、そして、この取組



はどんなものかと、考えてみたい方は、このホームページにアクセスしていただきたいと思います。

私からの報告は、これで終わります。どうもありがとうございました。



